

クワガタムシ・カブトムシの最新情報誌 ビー・クワ 月刊むし12月増刊号

BEETLE

- オオクワ超座談会(後編)
- ヤエヤマコクワガタ採集記
- ビークワ・KLBコラボ企画
久留米・能勢ブリーダー対決

KUWAGATA RECORD
CONTEST 26

発表! 第26回

クワガタ飼育 レコードコンテスト

とうとう更新数が100種超え!

グランディスオオ、スマトラヒラタ…人気種がさらに限界を超えてきた!

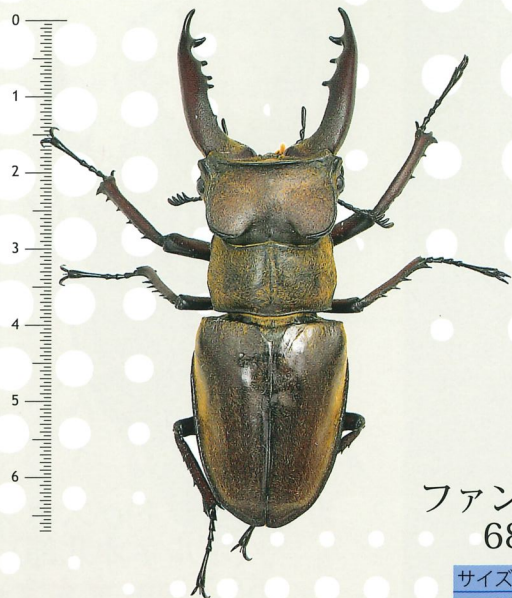
101
AUTUMN 2026



黄祥軒 (台湾)

ファンジンシャンミヤマ
中国・貴州省梵淨山産W F2。2024年11月14日に1齢幼虫5頭を入手し、無限マツトを用いて500ccボトルで飼育を開始した。2025年2月21日に

マツト交換をおこない、1400ccボトルへ移して飼育を継続。5月の交換時には幼虫体重119g、8月には169gを記録し、2026年1月に最後のマツト交換をおこなった際は145g。その後蛹化し、6月に羽化を確認し、掘り出しをおこなった。飼育温度は19℃一定とし、幼虫飼育には無限マツトを使用した。今回は♂1頭のみで、残りの4頭はすべて♀でした。次世代では飼育数を増やし、70mm超えを目標にしたいです。



ファンジンシャンミヤマ
68.7 mm ★★★★★

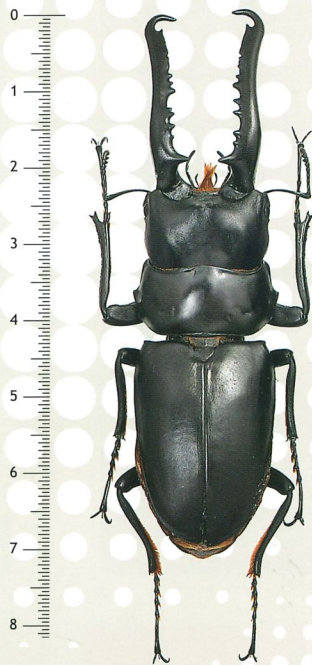
サイズ評価	技術評価	総合評価
3.0	3.5	3.25

ファンジンシャンミヤマ寸評
・サイズ評価平均3.3(最低点3 最高点4)
・技術評価平均3.4(最低点3 最高点4)
初登録。野外最大は73.5mm。
飼育情報がおぼろしく飼育難易度がよくわからない、初登録のうえに飼育コメントでは羽化したのは1♂だけ、という審査員泣かせの状態で、各審査員とも様子見の評価です。野外最大サイズから考えてもまだまだ大きくなるのは確実で、日本のミヤマと同じグループに属するようなので飼育難易度が高いとも思えませんが、次回以降、いきなり70mmオーバーが来ても不思議ではありませぬ。審査員の☆5評価予想は73~78mmとなっています。



鄭兆雄 (台湾)

ガートルードノコギリ
フィリピン・ルソン島ネバウイスカヤ州産。昨年、血入れ替え(アウトブリード)をおこなったばかりの新血統です。アペレージでほぼ全個体が65mm以上をマークしており、幼虫期間はすべて当店オリジナルの「オオクワプロジェクトP2二次発酵マツト」を使用して飼育しました。管理温度20℃、飼育容器は800×1400cc。2024年7月21日(1齢)、12月7日(3齢12g)、2025年5月4日(15g)、11月6日羽化。



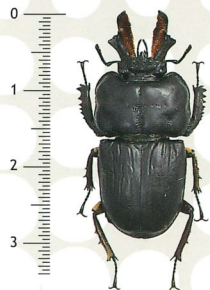
ガートルードノコギリ
71.1 mm ★★★★★

サイズ評価	技術評価	総合評価
4.0	4.0	4.0



葉柏庠 (台湾)

ムナコブ
オーストラリア・クイーンズランド州産。2025年5月に1齢幼虫を取得。7月に3齢となった時点で♀を判別し、♂は500cc、♀は250ccのボトルへそれぞれ投入して管理した。12月に羽化を確認し、掘り出しをおこなった。



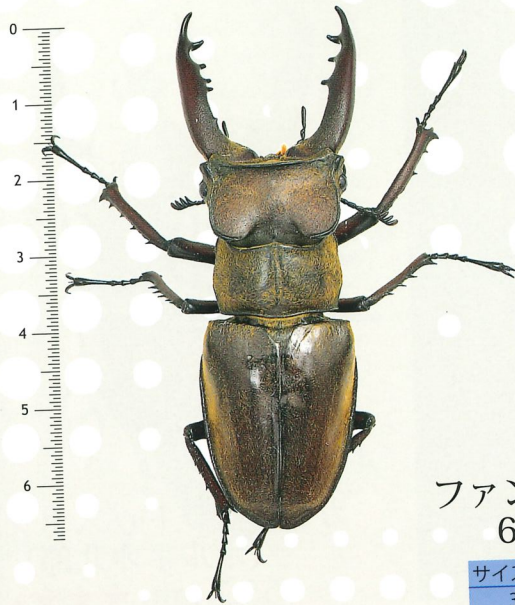
ムナコブ
30.2 mm ★★★★★

サイズ評価	技術評価	総合評価
2.5	3.0	2.75

ムナコブ寸評
・サイズ評価平均2.8(最低点2.5 最高点3)
・技術評価平均3.1(最低点2 最高点3.5)
初登録。野外最大は31.3mm。
初登録というか、おそらくムナコブをきちんと飼育してサイズを測るという人があまりいない可能性がありますね。審査員情報によると、「月夜野きのこ園の2003年の羽化報告に33mm、くわがふらネットの通販過去記録に32mmが複数あります」とのこと。30mmはまだまだ通過地点という感じでしょうか。飼育でなら35mmくらいに到達してしまえば、あと、飼育コメントにもっと情報を書いてという審査員が多かったですね。審査員の☆5評価予想は33~40mmとなっています。

ガートルードノコギリ寸評
・サイズ評価平均4.3(最低点4 最高点4.5)
・技術評価平均4.3(最低点4 最高点4.5)
前レコードは昨年登録の69.0mmで、2.1mmの更新。野外最大は70.0mm。少しずつサイズアップしてきた本種もとうとう70mmをオーバーしました。すばらしい。幼虫期間の長さ(おそらく14ヶ月くらい)を評価する審査員が多く、竹辺氏も「幼虫期間も長く取れていますが、早い段階で体重を乗せたうえで、そこから1年近く引張っていることに飼育技術の高さが見えます」とコメントしています。ここから更新難度はかなり高そうながら、謝氏は「75mmまで狙える」と見えています」とコメントしていました。審査員の☆5評価予想は73~78mmとなっています。

ファンジンジャンミヤマ 寸評
・サイズ評価平均3.3(最低点3 最高点4)
・技術評価平均3.4(最低点3 最高点4)
初登録。野外最大は73.5mm。
飼育情報。ほぼ全く飼育難易度がよくわからない、初登録のうえに飼育コメントでは羽化したのは1匹だけ、という審査員泣かせの状態で、各審査員とも様子見の評価です。野外最大サイズから考えてもまだまだ大きくなるのは確実で、日本のミヤマと同じグループに属するようなので飼育難易度が高いとも思えません。次回以降いきなり70mmオーバーが来ても不思議ではありません。審査員の☆5評価予想は73〜78mmとなっています。



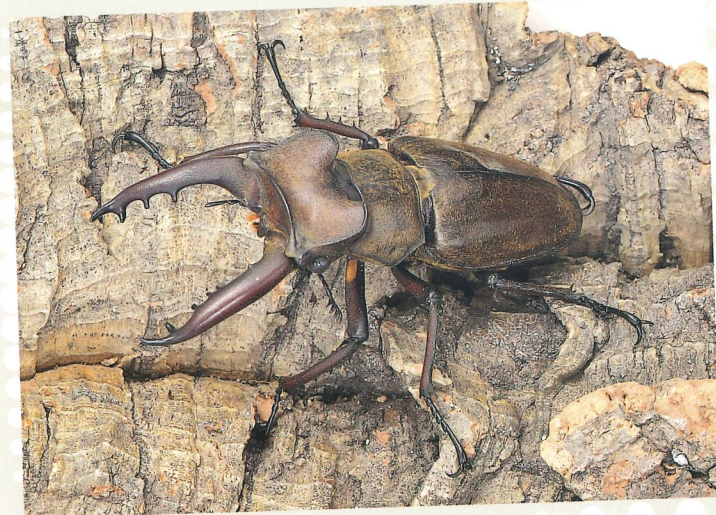
ファンジンジャンミヤマ
68.7 mm ★★★★★
サイズ評価 3.0 技術評価 3.5 総合評価 3.25

中国・貴州省梵淨山産W F2。2024年11月14日に1齢幼虫5頭を入手し、無限マツトルで飼育を開始した。2025年2月21日にマツト交換をおこない、1400ccボトルへ移して飼育を継続。5月の交換時には幼虫体重11g、8月には16gを記録し、2026年1月に最後のマツト交換をおこなった際は14.5g。その後蛹化し、6月に羽化を確認し、掘り出しをおこなった。飼育温度は19℃一定とし、幼虫飼育には無限マツトを使用し、今回は1頭のみのみで、残りの4頭はすべて♀でした。次世代では飼育数を増やし、70mm超えを目標にしたいです。



黄祥軒 (台湾)

ファンジンジャンミヤマ
中国・貴州省梵淨山産W F2。2024年11月14日に1齢幼虫5頭を入手し、無限マツトルで飼育を開始した。2025年2月21日にマツト交換をおこない、1400ccボトルへ移して飼育を継続。5月の交換時には幼虫体重11g、8月には16gを記録し、2026年1月に最後のマツト交換をおこなった際は14.5g。その後蛹化し、6月に羽化を確認し、掘り出しをおこなった。飼育温度は19℃一定とし、幼虫飼育には無限マツトを使用し、今回は1頭のみのみで、残りの4頭はすべて♀でした。次世代では飼育数を増やし、70mm超えを目標にしたいです。



ガートルードノコギリ
71.1 mm ★★★★★
サイズ評価 4.0 技術評価 4.0 総合評価 4.0



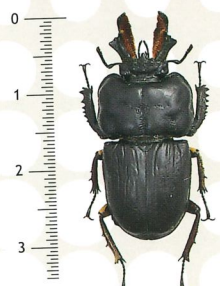
鄭兆雄 (台湾)

ガートルードノコギリ
フィリピン・ルソン島ネバUISカヤ州産。昨年、血統入れ替え(アウトブリード)をおこなったばかりの新血統です。アベレージでほぼ全個体が65mm以上をマークしており、幼虫期間はすべて当店オリジナルの「オオクワプロジェクト2次発酵マツト」を使用して飼育しました。管理温度20℃、飼育容器は800〜1400cc。2024年7月21日(1齢、12月7日(3齢12g)、2025年5月4日(15g)、11月6日羽化。



葉柏彦 (台湾)

ムナコブ
オーストラリア・クイーンズランド州産。2025年5月に1齢幼虫を取得。7月に3齢となった時点で♀を判別し、♂は500cc、♀は250ccのボトルへそれぞれ投入して管理した。12月に羽化を確認し、掘り出しをおこなった。



ムナコブ
30.2 mm ★★★★★
サイズ評価 2.5 技術評価 3.0 総合評価 2.75

ムナコブ寸評
・サイズ評価平均2.8(最低点2.5 最高点3)
・技術評価平均3.1(最低点2 最高点3.5)
初登録。野外最大は31.3mm。
初登録というが、おそらくムナコブをきちんと飼育してサイズを測るという人があまりいない可能性があります。審査員情報によると、「1月夜野きのこ園の2003年の羽化報告に33mm、くわがふなネットの通販過去記録に32mmが複数あります」とのこと。30mmはまだ通過地点という感じでしょうか。飼育でなら35mmくらいに到達してしまいうえ、飼育コメントにもっと情報を書いてほしいという審査員が多かったです。審査員の☆5評価予想は33〜40mmとなっています。

マンディブラリスフタマタ (原名亜種) 寸評
・サイズ評価平均3.6(最低点3.5 最高点4)
・技術評価平均4.0(最低点3 最高点4)
前レコードは2017年登録の107.7mmで、9年ぶり14mmの更新。野外最大は112.0mm。ここまでの大きさに育つても、まだ野外最大に届いていないという点で評価が付けづらい種。サイズ評価に4を付けた竹辺氏のコメント「継続した素養とエサ慣れさせることの重要性はまさにその通りで、言うは易しですが、実際「3サイクル回し」と言われてその通りにやり抜ける人が何人いるのでしょうか。継続性を評価したいです」には、うなずかざるを得ない部分があります。また、謝氏は「大型フタマタは人工飼育での大型化が極めて困難。4回の記録更新を経て野外記録を超えられないのは、その生態や習性がまだ完全に解明されていないことを物語っている」とコメントしており、まだ飼育方法に改善の余地があることを示唆しています。また、容器サイズが小さいという指摘もありましたが、たしかに100mmを超える種でしたら3000cc以上の容器をお勧めですね。審査員の☆5評価予想は115〜121mmとなっています。



マンディブラリスフタマタ (原名亜種)
109.1 mm ★★★★★
サイズ評価 3.5 技術評価 4.0 総合評価 3.75



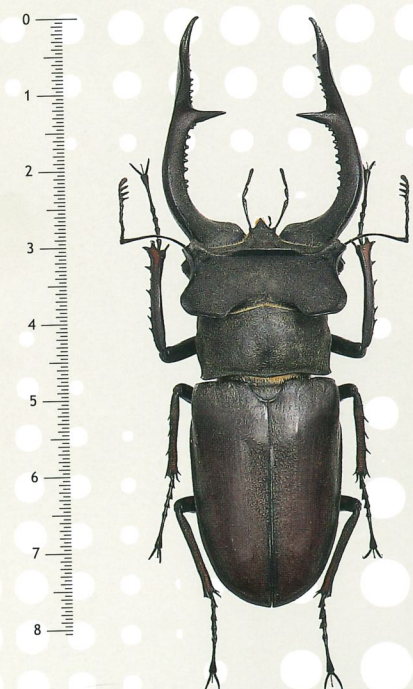
黃瀚頤 (台湾)

マンディブラリスフタマタ (原名亜種)
インドネシア・ボルネオ島南カリマンタン州産CB F1(腹違いの異母兄妹によるインブリード)。管理温度は21〜23℃。台湾製の市販2次発酵マツト使用。2024年4月6日、産卵木より1齢を割り出し800ccボトルへ個別投入。9月6日、2300ccボトルへ交換(体重34.5g)。2025年1月28日(蛹化(蛹体重28.6g)。5月4日、羽化。本種の飼育は2021年にスタートし、大型個体を安定して完熟羽化させるためには、「血統の選別・累代」と「マツトへの慣れさせ」が極めて重要な要素だと実感しております。本個体は幼虫期間が1年未満と、大型個体としては明らかに短すぎる経過となりました。幼虫時の最大体重(53.6g)に対して蛹体重(28.6g)の減量が非常に大きく、個人的には悔しさを覚える結果です。日頃より温かく支えてくれる家族やフリーストショップ様、「大銀計劃」様、本当にありがとうございます。また、「AKS B Doremén」は、これからも限界を目指して挑戦し続けたい。「さらなる高みへ、PLUS ULTRA!」



王信博 (台湾)

クラーツミヤマ (原名亜種)
中国・四川省会東馬石産。2023年8月にネットで購入し、無添加産卵マツト+黒土を使用し、温度18〜19℃でセツトしました。11月に6頭の幼虫を得て、腐朽が進んだ無添加マツト+黒土を使用し、2齢になるまで多頭飼育。3齢になってからは温度を16℃に下げ、適量の低添加マツトを加えました。体重がピークに達した後、その重さを約1年間維持。大きな変化はありませんでしたが、体色は白色から薄い黄色へと変わり、体つきも引き締まってきたように見えました。3齢中後期は摂食量が減るため、やや乾燥気味のマツトを使用してマツトの劣化を防止(マツトの寿命延長)。2025年11月に蛹室を作り、2026年4月に羽化しました。個人的な見解ですが、この幼虫は共生菌に依存していると思うので、最初は多頭飼育にして、個別飼育に切り替えた後も元のマツトを混ぜるようにはしていません。この幼虫は腐朽度が高く、やや湿り気のあるマツトを好むように感じました。



クラーツミヤマ (原名亜種)
78.0 mm ★★★★★
サイズ評価 4.5 技術評価 5.0 総合評価 4.75

クラーツミヤマ (原名亜種) 寸評
・サイズ評価平均4.8(最低点4.5 最高点5)
・技術評価平均5.0(ALL 5)
前レコードは2024年登録の71.8mmで、2年ぶり6.2mmの更新。野外最大は76.0mm。これはスコイ、井上氏「化物の化物。ミヤマにあまり詳しくない自分でもこいつは評価しなればならないと見て感じるレベルの個体。竹辺氏「審査員の写真資料をサッと流し見した時に「お、カンタもついにこんな立派なのか」と思ったのですが、クラーツツツツと書いてあるんですよこれ。ちょっと意味がわかりませんが、謝氏「ヒメミヤマグループにおいて野外記録に迫ることすら極めて困難である中、それを凌駕した功績は絶大と言えます」などなど、皆さん良いコメントを付けてくれています。典型的には飼育の特徴が出てしまっており、この体に野外と同じバランスの太さが付いたら80mmを軽く超えるはず。まだまだやれることはありそうですね! 審査員の☆5評価予想は82〜85mmとなっています。

ガートルードノコギリ寸評
・サイズ評価平均4.3(最低点4 最高点4.5)
・技術評価平均4.3(最低点4 最高点4.5)
前レコードは昨年登録の69.0mmで、2.1mmの更新。野外最大は70.0mm。少しずつサイズアップしてきた本種もとうとう70mmをオーバーしました。すばらしい。幼虫期間の長さ(おそらく14か月くらい)を評価する審査員が多く、竹辺氏も「幼虫期間も長く取れています。早い段階で体重を乗せてうえて、そこから1年近く引つ張っていることに飼育技術の高さが伺えます」とコメントしています。ここから更新難度はかなり高そうながら、謝氏は「75mmまで狙えると思います」とコメントしていました。審査員の☆5評価予想は73〜78mmとなっています。